



西林寺庭園 秋のよそおい



西林寺だより

発行元
西林寺門徒総代会
広島県安芸郡坂町
坂東3-14-17
(082)885-0018
iタウンページ
西林寺

杖つえのことば

病気が治るのが
ご利益ではない

病気を無駄にしない
力がご利益である

仏教壮年会 あれこれ

納涼ビヤガーデン

7月27日(土)に結成50周年記念ビヤガーデンを開催しました。宝海寺と西昭寺からも多数ご参加いただきました。蓮華の会には前日から協力をいただき、仏教婦人会をはじめ多数の皆さまにご参加をいただきました。

ゲストの松田武彦氏の演奏会は、3管サクソクス吹き分けに、踊る人が出るほど大変盛り上がり、楽しいひとときを過ごしました。



安芸北組一日研修旅行

7月6日(土)に行われ、5名参加しました。山陰の古刹である仰誓和上ゆかりの石見の浄泉寺と自謙和上・範嶺和上ゆかりの西田の瑞泉寺に参詣しました。



7月25日(木)サンピア安芸で行われ、安芸北組から助成をいただいた交流会に4名参加しました。

西林寺改修工事

結成50周年記念事業として、帳場前の屋根と床板改修並びに、別棟炊事場の屋根改修工事を行いました。門信徒会館では音響増設の工事も行いました。



- 仏教壮年会予定
- 十月・境内庭木の剪定
 - 十二月・境内と本堂棟払い
 - 十二月・除夜の鐘・火の番

キッズサンガ

7月30日(火)68名の参加がありました。毎夕5時の鐘つきに来たことのある子どもたちも、初めて本堂内陣と客殿庭園を見学して、その広さと美しさに感激していました。



法座案内

秋季永代経法座

十月二十三日(水) 昼席より
二十五日(金) 朝席まで
講師 大阪府四條畷市 自然寺 加藤 順教師

仏教婦人会報恩講法座

十一月二十四日(日) 昼席より
二十六日(火) 朝席まで
講師 西林寺住職 お斎 二十四日(日) 十一時より(申し込みは 十一月十五日(金)まで)

報恩講法座

十二月十三日(金) 昼席より
十五日(日) 朝席まで
講師 豊田郡大崎上島町 浄泉寺 加藤 一英 師

編集後記

遅い梅雨明けと台風の影響で降雨の日が続き、酷暑も一瞬に過ぎ去り、早や秋を迎えました。一年がまた過ぎようとしています。自身を取り巻くすべてが、過ぎ去ってゆく(移ろいゆく)現実に向き合う時間を工夫してもちたいものです。ぜひ、寺報をご縁に。

普蔵勸学と大瀛和上(2)

大瀛(1759~1804)は筒賀村に生まれ、5~6歳で四書五経を暗誦し、7歳から近隣の西方寺義諦に仏法を学び、11歳で得度します。報専坊(寺町)慧雲に師事し、その学寮甘露社に入り、大瀛と改名。18歳で京都に上り、真宗教学の中心機関である学林で研鑽を重ねます。20歳で帰郷してからは数カ所の寺院の住職を務め寛政6(1794)年に広島城下に学寮を設立して数多くの子弟を育てました。ここで普蔵は大瀛に師事します。その頃、学林の最高責任者が2代(功存と智洞)にわたって、浄土往生のためにはこれまでより積極的に自らの三業(身と口と心)で仏にタノム必要性を主張します。それに対して、大瀛は多数の書物を著して反論します。これが江戸幕府が介入することとなる本願寺史上類を見ない大騒動の「三業惑乱」です。

大瀛筆 廟風行

廟風行
於此...
大瀛が当時の学林のありさまを辛辣に批判を交えて著した漢詩



午後、周防大島荘厳寺の白鳥智明住職とMIKI氏による記念コンサートが開催されました。おふたりの楽しいトークを交えた優しくさわやかな歌声と二胡の美しい音色に魅了されました。また、

仏教婦人会は、昭和24年1月に結成され、今年で70年を迎え、記念大会を6月30日(日)に開催いたしました。式典では、住職のお祝いのことばに続き、奥廻幸恵会長がこれまでの仏婦の歩みを交えた挨拶をしました。そして、正原利朗副総代長と大廻邦雄仏壮会長からご祝辞をいただきました。記念講演は、ご住職が「**落在の人生**」という講題で、心豊かに生きるということについてのお話を聴聞しました。当日は、大雨の予報がありましたが、降雨もなく会員の皆さまはじめ、多数のご門徒並びに宝海寺や西昭寺からもたくさんのお参りをいただきました。



仏婦結成70周年記念式典

仏教婦人会 あれこれ



仏教婦人会 結成70周年記念大会 令和元年6月30日(日)

おみがぎ・草刈り

8月12日(月)朝事後、台風を心配しながら暑い中、お盆前のおみがぎと境内の草刈りを、仏教壮年会の皆さまと行いました。



盆踊り

8月15日(木)盂蘭盆会夜席の後、予定しておりました盆踊りは、台風10号の接近により中止となりました。

歌と歌の間に語られた仏法のあじわいに、うなずかかせていただき、記念大会を終了しました。記念品として西林寺に「五色幕」(幔幕)を贈呈させていただきました。



記念品 五色幕 (幔幕)

聞思録(もんしりく)

アポロ11号が月に着陸して50年になります。半世紀です。宇宙飛行士がゆっくりと月面を歩く姿をテレビで見た瞬間の興奮は今でも憶えています。翌年には大阪で万国博覧会もあり、日本は高度経済成長の真っただ中。時代に対する何かしら高揚感がありました。

それに先立ち、『鉄腕アトム』というアニメが雑誌に掲載され、テレビ放映に合わせて爆発的な人気となりました。この『鉄腕アトム』は、原子力(後に核融合)をエネルギー源として、人間と同等の感情を持った少年のロボット「アトム」が活躍する物語です。しかし、作者の手塚治虫氏は『鉄腕アトム』が、未来の世界は技術革新によって繁栄し、幸福を生むというビジョンを掲げているように思われているが、そんなテーマで描いたわけではありません。自然や人間性を置き忘れて、ひたすら進歩のみをめざして突っ走る科学技術が、どんなに深い亀裂や歪みを社会にもたらし、差別を生み、人間や生命あるものを無残に傷つけていくかをも描いたつもりです。幸せのための技術が人類滅亡の引き金ともなりかねない、いや現になりつつある」と警鐘を鳴らしています。

先の月面を歩いた宇宙飛行士の「人類にとつ

ての大きな一歩」というフレーズは有名ですが、それにともなつて

“If they can send a man to the Moon, why can't they...” (“人類に人を月に送り込む英知があるのなら、どんな問題だって解決できる”の意)

というフレーズまで生まれます。

「杖のことば」の「病気が治るのがご利益ではない 病気を無駄にしない力がご利益である」を重ねてみると、科学技術への崇拜は、まさに「どんな病気でも治せる。願えば何でも叶う」という感覚を生み出したと言えます。科学技術は人類に多大な恩恵を与えました。しかし、同時に何か大切なものを喪失してしまったのではないのでしょうか。

本当の英知とは、現実を引き受け、それを無駄にしない(病気を無駄にしない) 確かな智慧をひらいてゆくことです。それは宗教に出遇う以外に道はありません。

宗教に出遇うとは、自らの根底に何らかの人間を超越した絶対的なものを見出し、それへの関わりの内に自らを省み、捉えらるることです。仏教は仏さまを自らを映し出す「内なる鏡」といただけます。それは自らを理解し、捉え直すためには不可欠なはたらきであり、存在を根底から支える確かなものとの邂逅です。そのとき今まで気づけなかった意味に出遇えるのです。

米国からの来訪

7月26日(金)一昨年に続き、坂町の国際交流事業の一環として来日された南加坂郷友会の皆さまが西林寺に参拝されました。



坂郷友会というのは、戦前・戦後に米国カリフォルニア州に移住された坂町出身者の親睦団体で、南カリフォルニアで結成された団体が南加坂郷友会です。大正15年に創設され、現在も年8回程度の行事を開催して懇親を深めています。



△向かって右から▽

- 花房 なおみ
- 花房 道生
- 花房 メーガン
- 花房 タイラー
- 木村 斉明 法務員
- 熊本 レイ
- 熊本 ケイティ
- 花房 シャロン
- 花房 麻里
- 熊本 優子